

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和12年度
市町村名 (市町村コード)	倉敷市 (33202)
地域名 (地域内農業集落名)	真備町箭田 (境・旭町・桑の市・土師谷・矢砂・半田・中須賀・鍋屋・山根・直戸・古森・井領・遠田・所生・反古・松尾・福原)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	109.5 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	109.5 ha
② 田の面積	94.9 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	14.6 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	21.0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	- ha
(参考) 区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	48.0 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	- ha
(備考) 遊休農地面積1.6ha(うち1号遊休農地1.1ha、2号遊休農地0.5ha)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

区域内農地の約9割が田の水稻耕作地域である。70代以上の農業者が耕作する農地面積が地域内農地の4割強を占めており、今後高齢化による規模の縮小や離農者の増加が予想されるため、新たな農地の受け手となる担い手の確保が必要である。農地の面積が狭小、不整形、水路が未整備など、条件が良くない農地も多いため、担い手の確保や集積・集約化には農地の条件改善が課題となっている。

【区域の基礎的データ】

・認定農業者:11経営体

・主な作物:水稻、露地野菜、ぶどう

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

地域内の農業者は高齢化により今後離農者が増加することが想定されるため、認定農業者、認定新規就農者を中心に農地の集積・集約化を図る。水稻が主な作物のため、一体的な農地利用ができるよう、農地の条件改善を進める。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
認定農業者や新規就農者等担い手を確保し、農地の集積・集約化を進め、地域内農地の維持・保全を図る。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	11.0 %	将来の目標とする集積率	11.0 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
農地中間管理機構を活用して、担い手を中心に農地の集積・集約化を進め、農地の集団化を図る。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に農地の集積を進めるとともに、耕作者の交換等により農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方法
貸付意向のある農地を農地中間管理機構に貸し付け、段階的に担い手への集積・集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組
畦畔除去による農地の区画拡大等の簡易な整備の検討により、効率的に営農できる農地の確保を図る。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
認定農業者や新規就農者の確保に努め、市・県・JA等と相談体制を確立し、農地貸借手続きや技術的指導の支援を行っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
地域の担い手への作業委託により合理化を図り、耕作放棄地の発生防止に努める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和12年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	農業者D	水稲・ニンニク・白ごま	4.7 ha	ha	水稲・ニンニク・白ごま	4.7 ha	ha	D	
認農	農業者I	水稲・麦	2.2 ha	ha	水稲・麦	2.2 ha	ha	I	
認農	農業者B	水稲・たけのこ・黒大豆	1.2 ha	ha	水稲・たけのこ・黒大豆	1.2 ha	ha	B	
認農	農業者J	水稲・野菜	1.2 ha	ha	水稲・野菜	1.2 ha	ha	J	
認農	農業者E	水稲・ニンニク	1 ha	ha	水稲・ニンニク	1 ha	ha	E	
認農	農業者K	水稲	0.5 ha	ha	水稲	0.5 ha	ha	K	
認農	農業者A	水稲・たけのこ	0.4 ha	ha	水稲・たけのこ	0.4 ha	ha	A	
認農	農業者H	露地野菜	0.3 ha	ha	露地野菜	0.3 ha	ha	H	
認農	農業者F	ぶどう・栗	0.3 ha	ha	ぶどう・栗	0.3 ha	ha	F	
認農	農業者G	水稲・野菜・大豆・麦	0.1 ha	ha	水稲・野菜・大豆・麦	0.1 ha	ha	G	
認農	農業者C	ぶどう	0.1 ha	ha	ぶどう	0.1 ha	ha	C	
計	11経営体		12 ha	0 ha		12 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
	該当者なし		

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

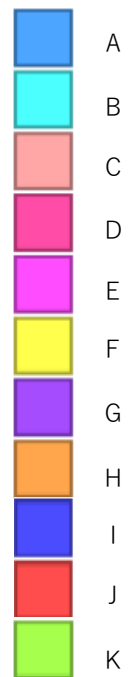
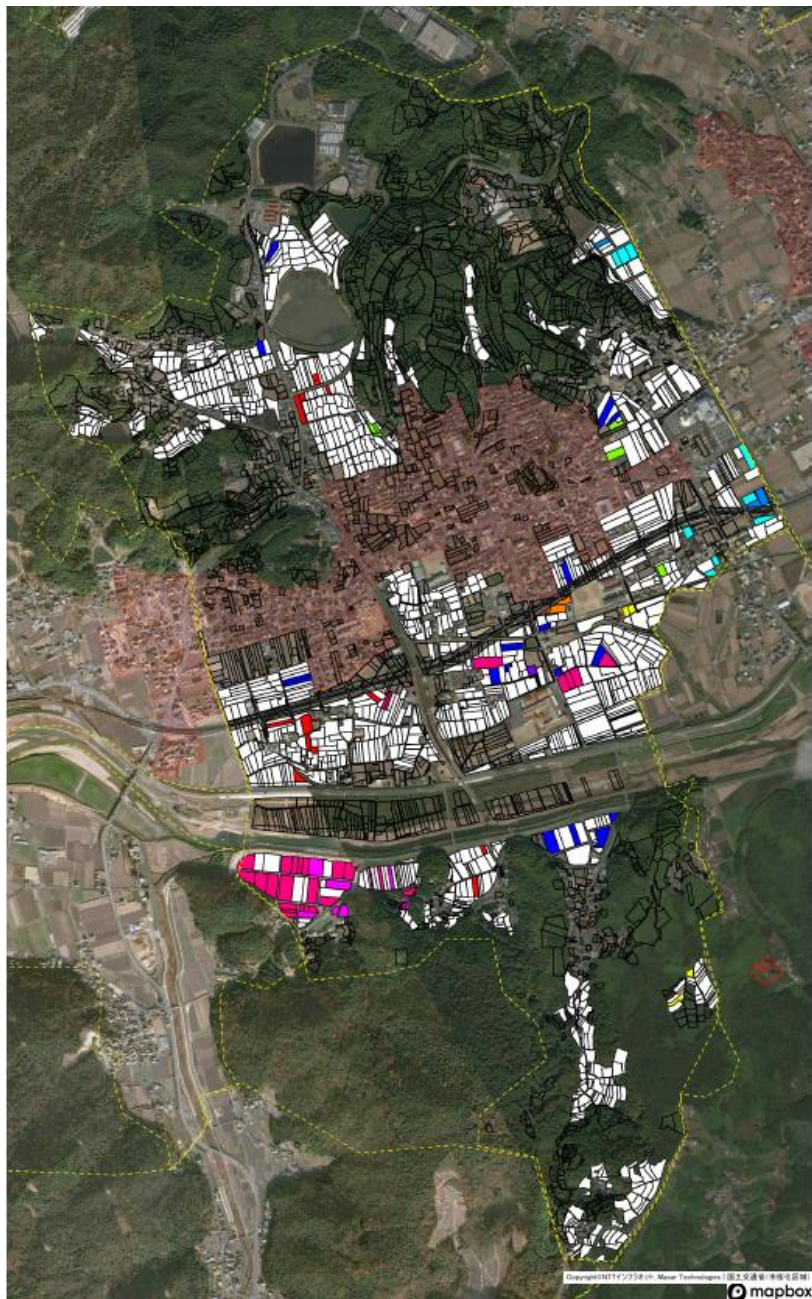
(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。

真備町箭田



白色は地域計画区域内で検討中の農地
筆界があるが無色のものは地域計画区域外の農地